

予防接種の誤接種防止のために

【参考】 予防接種間違い防止の手引き（予防接種ガイドライン等検討委員会）

起きやすい誤接種	誤接種の原因、事例等	誤接種防止のための対策
接種 間隔	・生ワクチンを接種した後、27日以上の間隔をあけずに、次のワクチンを接種した。 ・不活化ワクチンを接種した後、6日以上の間隔をあけずに、次のワクチンを接種した。【誤接種事例】 ・麻しんワクチンを接種し、21日後に風しんワクチンを接種した。	 ◎予防接種の記録を必ず残す。 ◎接種前に、予防接種の記録（母子健康手帳等）を確認する。 ◎前回の接種が生ワクチンか不活化ワクチンかの確認をする。
接種量	・予約時と接種当日で年齢が変わった場合 ・年齢により接種量が異なる場合（日本脳炎ワクチン、DTワクチン、インフルエンザ等）【誤接種事例】 ・小学校6年生児にDTワクチンを0.5mL接種した。	◎接種時の年齢や生年月日を口頭でも確認する。 ◎年齢に応じて接種量を変える必要のあるワクチンの接種時は、特に注意をする。【DT、日本脳炎、インフルエンザ、B型肝炎】
期限 切れ	・接種する人と薬剤の管理をする人がわかれている場合⇒かえって有効期限の確認が他人任せとなり、エラーが起きやすい!! ・【誤接種事例】 ・使用したワクチンが、有効期限を過ぎていたことが、接種終了後に判明した。	◎ワクチン毎にロット番号順にまとめ、有効期限が記載されている側が見やすいように配置し、期限の近いワクチンは手前に保管。 ◎ワクチン納入時に受払簿に期限を書き、定期的にチェックする。 ◎期限切れのワクチンはすぐに廃棄する。
種類	・名称が似ている場合（「麻しんワクチン」と「風しんワクチン」、「DPTワクチン」と「DTワクチン」） ・兄弟で別のワクチンを同じ日に接種する場合 ・数種類のワクチンをあらかじめシリンジに吸って用意している時に、受ける人の順番が入れ替わる場合 ・効果が同じワクチンでも対象者が異なる製品がある場合（「肺炎球菌ワクチン」） ・【誤接種事例】 ・2歳未満児の小児にプレベナー（小児用肺炎球菌ワクチン）ではなく、ニューモバックス（肺炎球菌ワクチン）を接種した。（接種対象外に接種した。）	◎トレイは接種者一人ずつ専用にする。 ◎接種ワクチン液を充填したシリンジの傍に内容を確認できるバイアルを置いておく。 ◎受付時に予診票は回収せず、対象者に持たせておき、対象者と予診票がセットで動くようにする。 ◎肺炎球菌ワクチンの処方時には、「プレベナー」、「ニューモバックス」と製品名で呼び、接種対象者の年齢、基礎疾患の有無等も確認する。
接種回数	・過剰接種であることがほとんど ・前回接種時に母子健康手帳上の記載もれがある場合 ・【誤接種事例】 ・麻しん風しんワクチンを1年間で2回接種した。（個人通知の券と母子健康手帳の券を両方使用）	◎予防接種の記録を必ず残す。 ◎接種前に、予防接種の記録（母子健康手帳等）を確認する。 - 記載もれの場合もあるので、必ず口頭でも確認する。
禁忌の接種	・妊婦への接種。妊娠初期に本人が自覚していない場合もあるので要注意!! ・発熱がある場合 ・禁忌の薬剤を服用中の場合 ・【誤接種事例】 ・免疫不全・免疫異常をおこす薬剤治療中の児へ接種した。	◎妊娠の有無だけでなく、必ず最終の月経日を確認する。 ◎接種前に医療機関で検温する ◎服用中の薬を確認する。
接種部位	・筋肉注射と皮下注射 ・同時接種する場合の、接種部位の間隔 ・【誤接種事例】 ・BCGワクチンを皮内注射、ポリオ生ワクチンを皮下注射した。	◎接種前にワクチン添付文書等で、ワクチンの投与方法を確認する。
空の注射器を 刺す	・接種前や接種後の空のシリンジを刺してしまう場合 ・接種済のシリンジを机の上や接種前のシリンジと同じトレイに戻した場合	◎使用済みの注射器を入れるトレイと、未使用注射器を入れておくトレイの置く場所を離す。 ◎トレイの種類を変え、両者が混在しないようにする。



このような時は、特に誤接種の原因となることがあります。**いつも以上に注意しましょう！**
●兄弟の同時受診 ●受診者数が多い ●一度に多くの種類の予防接種 ●単純作業的 ●接種作業の分業化 ●慣れないスタッフ(学生実習等)